

<p>【技術の名称】 WTクランプ工法 -既存材と補強鋼材を鋼製金物により拘束する鉄骨トラス梁構成材の耐震補強工法-</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第07-27号 性能証明発効日：2008年3月4日</p> <p>【取得者】 株式会社フジタ</p>
---	---

【技術の概要】

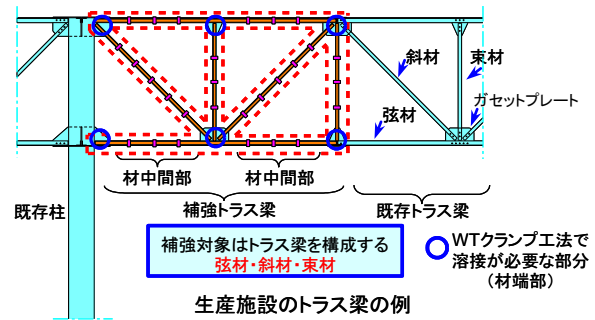
本技術は、既存鉄骨造建物のトラス梁の構成材(弦材、斜材、束材)に補強鋼材を合わせ、鋼製金物(WTクランプ)を用いて拘束することにより補強する耐震補強工法である。本工法で用いるWTクランプは、鋼材と高力ボルトにより構成されており、既存構成材と補強鋼材の個材座屈を拘束するように取り付けられ、トラス梁の構成材の圧縮性能を向上させている。WTクランプによって既存材と補強鋼材を拘束する範囲は、トラス梁構成材の材端部以外に限定し、材端部では補強鋼材と既存材を隅肉溶接するとともに、既存材と既存ガセットプレート等を隅肉溶接することになっている。補強したトラス梁構成材に作用する引張力及び圧縮力は、材端部の隅肉溶接部からガセットプレートに伝達させることにしている。本工法を用いると、従来工法に比べて、現場溶接量、工期及び火災リスクの縮減が可能となる。

【技術開発の趣旨】

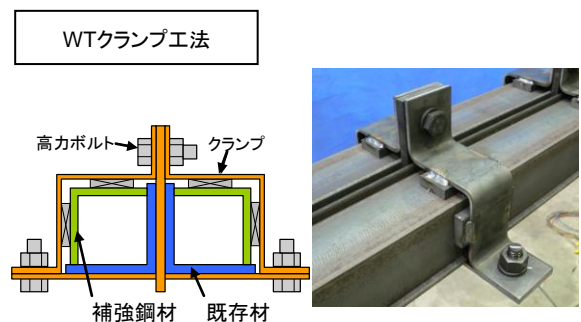
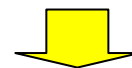
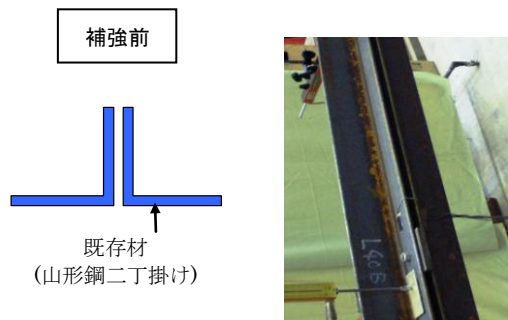
鉄骨造建物の耐震補強工事において、既存材と補強鋼材との接合に現場溶接を用いると、性能確保のための管理のみならず、現場工期や火災発生などについて種々の対策を講じる必要がある。本工法は、これらの問題の解消または軽減を意図して開発されたものである。

【性能証明の内容】

本工法で補強したトラス梁構成材(弦材、斜材、束材)は、申込者提出の設計・施工指針で提示している圧縮耐力を有するものと判断される。



トラス梁の耐震補強例(ラチス梁側面)



トラス梁の耐震補強例(弦材断面と写真)

【本技術の問合せ先】

株式会社フジタ技術センター

担当者：佐々木 聡

E-mail：ssasaki@fujita.co.jp

〒243-0125 神奈川県厚木市小野 2025-1 TEL：046-250-7095

FAX：046-250-7139